

研究報告書
研究課題：B（一般）
（平成28年度）

令和元年 10月 4日

公益財団法人 がん研究振興財団

理事長 堀田友光 殿

研究施設 兵庫医科大学病院

住 所 兵庫県西宮市武庫川町1-1

研究者氏名 田中 隆史



（研究課題）

悪性胸膜中皮腫患者のサルコペニアの有無が術後維持期の身体運動機能および健康関連QOLにどのように影響を及ぼすかについての検討

平成29年 2月 13日付助成金交付のあった標記指定課題について研究が終了致しましたのでご報告いたします。

【背景】

平成 26 年度(第 47 回)に獲得した、公益財団法人がん研究振興財団がん研究助成で行った調査により、悪性胸膜中皮腫(MPM)に対する胸膜切除/肺剥皮術(P/D)後急性期では、術前に比べ身体運動機能および健康関連 QOL が低下することが明らかとなった。しかしながら、先行研究において MPM 患者の術前サルコペニアの有無が、術後日常生活での身体運動機能および健康関連 QOL にどのように影響を与えているか、を検証した報告は国内外においてみられない。したがって、本研究により MPM 患者の術前サルコペニアの有無の特徴、および日常での身体運動機能と QOL にいかに影響を与えるかを明らかにすることで、本邦において今後増加が予想される MPM 患者に対する、外来期の適切なリハビリテーションプログラム立案の一助になると考えられる。

【対象及び方法】

対象は、P/D を施行した MPM 患者 14 例。サルコペニアの有無はカルテより抽出した。また栄養評価として GNRI を用い、身体機能は体重、膝伸展筋力、6 分間歩行距離(6MWD)を測定した。QOL 評価は SF-36 を用いた。測定は術前と手術 1 年後に実施した。統計学的分析として、各評価項目の術前後平均値比較は対応のある t 検定を用いて、また各評価値の術前後の変化量の相関は、Pearson の相関係数を用いて検討した。

【結果】

術前にサルコペニアを呈する症例はいなかった。GNRI は術後優位に低下($p < 0.001$)しており、6 例が軽度、5 例が中等度の低栄養リスクであった(術前は全例リスクなし)。また 6MWD($p < 0.001$)が有意に低下した。SF-36 は各項目で低下を認めたが、優位な差は認めなかった。各評価値の変化量の関係は、6MWD と GNRI ($r = 0.607$, $p < 0.05$)で相関を認めた。

【結論】

MPM に対する術後の低栄養は遷延する可能性が示唆された。身体運動機能の向上には十分な栄養が不可欠と思われ、術後入院期間だけでなく継続した栄養管理・指導が重要と思われた。

【謝辞】本研究にご賛同いただき多大なご支援を賜りました、公益財団法人がん研究振興財団の関係者の皆様に深謝いたします。

【研究報告】

論文 Tanaka T. et al. Physical function and health-related quality of life in the convalescent phase in surgically treated patients with malignant pleural mesothelioma. Support Care Cancer. 2019 Feb 20. [Epub ahead of print]